

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東京外国語大学				
取 組 名 称	世界的基準となる日本語スタンダードの構築				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	上記以外の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A31009	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	その他				
キ ー ワ ー ド	留学生教育, 日本語教育, アカデミック・ジャパニーズ, 日本語スタンダード, 全学日本語プログラム				

<選定理由>

大学を始めとする日本の高等教育機関が、これまで以上に積極的に留学生の受け入れを進めていこうとしている現在、留学生の日本語教育における世界基準となりうるスタンダードを構築しようという取組は意欲的であり、今後その重要性はますます大きくなっていくだろう。

この取組の背景には、長年にわたる留学生教育の経験の蓄積があり、そこで明らかになった課題・問題点を踏まえて、その解決を計画的・段階的に準備しようという点が説得的である。特に、よりきめ細かな教育を目指した「全学日本語プログラム」開講クラスの組替えが実際にどのような教育・学習効果をもたらすのか、その結果が興味深い。

ただし、新たなスタンダードによるクラスにおける教育と同時に開発される予定の教材の間の連関性・連動性について、もう少し明確な位置づけが必要ではないかと考える。

今後は、この取組を通じ、他大学への汎用性の高い成果が得られることを期待したい。

取組の概要【1 ページ以内】

本学では70カ国から573名の留学生を受け入れ、学生総数の約14%を占める（数値はいずれも平成19年5月1日現在）。留学生比率は国立大学の中で最も高く、本学における留学生教育の占めるウエイトは大きい。

留学生に対する日本語教育は、本学の学内共同教育研究施設である留学生日本語教育センター（以下、「留日センター（JLC）」とする）が「全学日本語プログラム」を開講して担っているが、その運営に関しては、本学の役員会直属の組織であるキャンパスグローバル化推進室（教育担当理事が室長を務める）が全学的な立場からの検討を行っている。

留日センターにおいては、平成15年から日本語教育の質の向上を目指して、「JLC日本語スタンダード」の作成に取り組んできた。これは、留学生が大学で学ぶ上で必要なアカデミック・ジャパニーズの観点から検討し、学習者のレベル（初級前半/後半・中級前半/後半・上級）ごとの行動目標を「聞く（独話）」「話す（独話）」「聞く話す（会話）」「読む」「書く」の5つの技能別に設定したものである。さらにその目標実現のために必要となるスキルや具体的な指導法などを明らかにしている。これまでの5年間で基本的な形を整え、学外の日本語教育関係者からも評価を得ている。今後は、JLC日本語スタンダードに基づく教材の作成を行い、具体的な教育実践を通して更なる改善を図り、アカデミックな日本語教育のスタンダードとして世界的基準となることを目指す。このような取組は世界各国から多くの留学生を受入れ、また、国費留学生の予備教育を約40年にわたって行ってきた本学においてこそ実現可能なものと考える。さらには、JLC日本語スタンダード及び教材等の公開により、本学における日本語教育のみならず、我が国における留学生の日本語教育にも大きく寄与することが見込める。

今後の取組みとしては、

① JLC日本語スタンダードを基にした教材の開発・公開

JLC日本語スタンダードで明確にした学習者のレベル別行動目標を達成するためにふさわしい教材の開発を行い、それを広く公開することにより、学内外を問わず、JLC日本語スタンダードを基にした教育実践への取組みを推奨する。

② JLC日本語スタンダードの行動目標達成をより容易にするための「全学日本語プログラム」開講クラスの組替え

JLC日本語スタンダードで設定した学習者のレベル別行動目標達成をより容易にするため、全学日本語プログラムの開講クラスの組替えを試行する。これにより本学の留学生の日本語学習の質を高めることができる。

③ 研究会等の開催によるJLC日本語スタンダードの検証及び達成レベル認定方法の確立

学内外の関係者の参加も得て研究会等を開催し、JLC日本語スタンダード及びそれに基づく教材や指導法についての意見交換を行い、JLC日本語スタンダードの検証及び達成レベルの認定方法の確立につなげる。

④ 日本語ライティング支援の実施

留学生がレポートや論文作成時に随時助言や指導が受けられる日本語ライティング支援室（仮称）を設置し、留学生のライティング力アップにつながる支援を行う。3年次（22年度）には、既に連携関係にある大学の留学生にまで支援の対象を広げることも検討する。

留学生の日本語力向上のための指標となるJLC日本語スタンダードを世界的基準となるようさらに進化させ、それに基づく教育方法を確立することは、留学生に対する日本語教育の喫緊の課題である。これにより、留学生30万人計画の達成に向けた我が国の大学のソフト面での基盤整備にも大いに資すると考える。